



「東風(こち)」図書館だより
平成29年(2017)年度 第2号
福岡県立嘉穂東高等学校
図書専門委員会発行

朗読会 ロージン



10月26日の芸術鑑賞会では、コスモスコモンにて、劇団影向舎による「EDDIE」を鑑賞しました。
10月30日には、毎年一回名作に親しもうという目的で、朗読会が行われました。今年の作品は、東直子さんの「とりのつくしま」の一編『ロージン』でした。みなさんが書いてくれたそれぞれの感想文の一部を紹介します。

芸術鑑賞会 EDDIE



・劇の中で印象に残っているシーンは、日本人のコーチの人が選手に対して、とても厳しく接しているのに対して、エディーが「それはラブじゃない」と言って反対した場面です。トレーニングや練習になると大きな声で指導するエディーでも常に選手たちをほめていたし、選手が減量中で食べれない時はエディーもご飯を食べなかったり、選手の健康ためにタバコを場所を移して吸ったりと、“ボクシングを教えている”というよりは、“一緒に戦っている”という感じがして選手を思いやるエディーの行動がとてもすごいと思いました。そんなエディーだったからこそ、選手たちはそれぞれが全力で戦うことができ、井岡選手は試合に勝てたと思います。エディーの行動や言動一つ一つが心に響きました。(一年 女子)

・エディーさんは、誰でも愛せるというすごい人だと思いました。劇で出てきた松本さんに、「死んだほうがましだ」とか「生きてる価値がない」とか言っていた人を今ここに連れてこいと言っていたシーンにはとても感動しました。僕もこの世の中に「生きてる価値のない人」は一人もいないと思うし、そのようなことを相手に対して強く言えるのは本当にすごい人だと思いました。(二年 男子)

・エディーさんの人間愛が凄いなと感じ、誰でもあんなに他の人のことを愛し、心から応援しその人の幸せを願うパワーは出ないと思います。私はエディーさんほど人間愛はないかもしれないけど、これからはもっと人のために人の幸せを願ったり、誰かの力になれる存在になっていきたいと思います。(三年 女子)

・「陽一」はお母さんが知らない間に成長していて、最後にその成長した姿を見ることができて、とてもいい話だと思いました。長く息子の近くにいたら、それこそ未練が強くなってしまおうし、だから、限りがある「ロージン」を「とりのつくしま」に選んだんだろうけど、多分私だったら、もっと長く近くにいたいものを「とりのつくしま」を選んでしまおうなと思いました。(一年 女子)

・この作品を読んで親子の愛をとて感じました。陽一のことを一番考えていて、自分のことよりも息子を大切に思う気持ちが強くて、私ももっと両親に感謝しなくてはいけないなと思いました。陽一の試合結果は見れなかったけれど、どんな結果でも、お母さんを安心させることができ良かったと思います。

私もこの主人公のように、誰かを思いやれる人になりたいです。(二年 女子)

・お母さんの辛さは計り知れませんが、少しでも息子と一緒にいたいという気持ちにくっついた。ロージンを選んだ理由もとても深く、「なるほど」と思いました。

いろんなことを考える時間になり、とてもよかった。家族のみんなにも感謝の気持ちを忘れずに接していこうと思いました。(三年 男子)

・率直に「考えさせられる」作品だと感じました。苦しみながら死んでしまった後に、もう一度だけ姿を変えて現世に戻れるチャンスをもたらした時に人は何に変わり戻ろうとするのか。そして、何を見ようと思いつけるのか。未練や後悔を抱えたまま死んでしまいう命がある中で、今生きる自分たちは何を思い、感じ、時を過ごしていくのか。後悔のないように生きていきたいです。(三年 男子)

★あなたなら、何を「とりのつくしま」に選びますか?という質問に対して一番多かった回答は『空』でした。

・空を選んだ理由は、空には表情があって、もし自分が死んでしまっても、空になれば、雨の時は泣いている、晴れの時は応援している、笑ってる、と伝えたい人に伝えることができると思うから。私は不安になると空にいる友達に話しかけているから。

(一年 女子)



★先生のおススメの本★

The Catcher in the Rye(ライ麦畑でつかまえて) Jerome David Salinger

アメリカ人の中高生なら必ず読ませられる古典で、日本で言えばおそらく夏目漱石の「吾輩は猫である」のような存在だと思ふ。中高生はどこの国でも多感な時期。何かに熱中し充実した学校生活を送る人もいれば、反面何に熱中すればよいのかわからずに、対人関係に悩み、すべてにやけになり、周囲から白い目で見られ変人扱いされる人もいる。主人公ホールデン・コールフィールドは後者。友達がいなくて強がっている彼、大人から見捨てられている彼、どうしようもない彼。それでもきっとあなたは彼の気持ちがわかるはず。「決して彼は気が狂ってなんかいない」と彼の側に立てると思ふますよ。年を重ねた今、もう一度読み直したい一冊です。必ず新たな発見があるはず。もう一度著者のサリンジャーと主人公のコールフィールドに再会し、話をしてみよと思ふます。

2年1組 高尾先生

お金と感情と意思決定の白熱教室 楽しい行動経済学 ダン・アリエリー

皆さんは夏休みの宿題を早く終わらせた方が後々楽になると分かっているのに最終日に必死に終わらせたり、試験勉強を早めに始めた方が良いと分かっているのに、前日に一夜漬けした経験はありませんか？行動経済学とは、人間が必ずしも合理的な行動をしないことに注目し、『従来の経済学では表せなかった社会現象や経済行動を観察することで、説明しようとする新たな経済学です。この本は、皆さんがなぜ合理的な選択をすることができないのかという疑問に答え、これからの人生で合理的な選択をとるためのヒントを教えてください。

2年2組 長尾先生

大切なことに気づかせてくれる33の物語と90の名言 西沢泰生

心に残っている言葉や、モットーとなっている言葉、皆さんそれぞれにあると思ふます。これまでの人生で出会った人のいろいろな言葉が、自分にPOWERをくれることがありますよね。この本には、そんな、人生を変える力のある物語や名言がたくさんです。とても読みやすく心にスーと入ってくるので、心を休めたい時、POWERが欲しい時、手に取ってみてください。

2年3組 中島先生

夢をかなえるゾウ 水野 敬也

インドのゾウの姿をした神様「ガネーシャ」がダメダメな主人公を導いていく話です。「ガネーシャ」は関西弁を話し、とてつもなくうさん臭いのですが、ナポレオン、孔子、ニュートン、ビル・ゲイツなどの歴史上のキーパーソンは全て彼が導いたそうです。「ガネーシャ」の助言を実行していけば、みんなも将来、成功者になれるかもしれません。

2年4組 山田先生

アンネの日記 アンネ・フランク

「あなたになら、これまでだれにも打ち明けられなかったことを、何もかもお話しできそうです。どうか私のために、大きな心の支えと慰めになってくださいね。」
読む前でも後でも、歴史的背景を知ると、よりいっそう色々なことを考えさせられる本です。

2年5組 原先生

「こども孫子の兵法」「こども君主論」「こどもブッダことば」 齋藤考

私の授業では紹介済みですが、悩み多き現代社会をたくましく生きていくための支えとなる言葉や「目からウロコ」のことばなどがたくさん、分かり易く書かれています。図書館に置いてもらえますので、是非読んでみて下さい。

2年6組 村田先生

★貸出本ベストランキング★

順位	書名	著者名	出版社
1	君は月夜に光り輝く	佐野 徹夜	KADOKAWA
2	君の臍臓をたべたい	住野 よる	双葉社
3	憧れの作家は人間じゃありませんでした	澤村 御影	KADOKAWA
3	神様は裏の顔	藤崎 翔	KADOKAWA
3	22年目の告白 私が犯人です	浜口 倫太郎	講談社

★貸出冊数クラスランキング★

順位	クラス	貸出冊数
1	1年3組	204冊
2	3年1組	175冊
3	3年3組	108冊
4	2年5組	107冊
4	1年5組	107冊

☆全体の貸出冊数は
1,596冊
でした！
(昨年は1,370冊でした)



(いずれも集計期間は平成29年7月1日～11月30日)

*今回の図書日より「東風」の制作は、2年生の図書委員が担当しました。